

岐阜県支部だより

- 巻頭言
- 支部研修会報告
 - ・全国大会報告
 - ・第1回研修会
 - ・第2回研修会
 - ・事務局より



巻頭言 「名誉会員」を受賞して

下野 正代

本年度の日本学校教育相談学会総会で、岐阜県支部理事長及び東海ブロック代表理事としての業績が認められ「名誉会員」として表彰されました。岐阜県支部の古田理事長様ならびに会員の皆様のご推薦によるもので、有難く受賞させていただきました。

高校に勤務していた私が、不登校の生徒を初めて担任したのは昭和52年のことでした。不登校が（神経症的）登校拒否と言われていた頃で、学校に一人の登校拒否の生徒が、学年に一人、学級に一人の時代が来るだろうと言われていました。登校刺激を与えないこと、「うんうん」と傾聴するという当時教えられた基本を守りながら、週1回の家庭訪問を続けました。出席日数の規定で留年となる日に自宅まで迎えに行き無理矢理登校をさせてしまいました。学級の生徒に彼の様子を聞いたところ「辛そうだった」とのことでした。その後、退学をした彼は、大学の宗教哲学に進み久しぶりに会うことになりました。帰宅する私の車のバックミラーに写っていたのは、大きな数珠をかけて車に向かって祈ってくれている彼の姿でした。彼との出会いを通して、熱心なだけでは駄目だけど熱心であることも大事だと思いました。ただ私には、彼の気持ちが全く分かっていなかったのです。

昭和54年には校内の相談係となりましたが、同じように生徒の話をうまく聴くことができませんでし

た。そんな時、岐阜県支部発起人の方から本学会への入会を勧められました。平成3年笠松町公民館での設立式にワクワクとして参加をしました。月刊『教育相談』であこがれていた先生方のお話を拝聴し、直接お話をすることができました。それから約20年後、思いがけなく支部理事長となり、岐阜県支部20周年、第25回全国大会と大きなイベントが続きました。別々の学校に勤務しながらの全国大会の準備でしたが、会員の皆様のおかげで見事な大会ができました。「一人一人を認め育てつなぐ学校教育相談」をテーマに朝日大学を会場に参加者223名、延べ200名を超える方々が発表をされました。懇親会では、郡上踊りの披露や地酒が出され大変和やかで楽しい大会で、会員一人一人が手をつなぎ全力で取り組むことができました。一番の思い出です。

教育相談が学校に位置づけられた頃は、訓育的指導が中心の時代で教育相談に対する抵抗も反発も激しいものでした。「教育相談は、世に隠れた宝を生み出す仕事です。10年頑張ってみなさい。分かってくれる人が出てきますよ。」の恩師の言葉を支えに40年が経過しました。カウンセリングの大切さを教えてくれた不登校の児童生徒たちに感謝をしたいと思います。岐阜県支部の益々の発展を祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

☆ 全国大会報告 ☆

第33回総会・研究大会(兵庫大会)

大会テーマ

「気づき つながり 支えあう学校教育相談
～さまざまな困難を乗り越え、
多様な個性が輝くために～」

[日程]

1. ワークショップ

(1) 日程 7月30日(金)

(2) 実施形式 オンライン研修

(3) 内容・講師

<午前の部 9:00~12:00>

A: 「明日から使える生徒指導・教育相談の技」
～ネットいじめ・ゲーム依存、コロナ禍での
集団づくりも含めて～

講師: 金山 健一先生 (神戸親和女子大学)

B: 「発達障害のある子どもへの支援について」

講師: 岩永 竜一郎先生 (長崎大学)

C: 「論文の書き方講座: 教育相談実践を、
心理学論文 (科学論文) にまとめる方法」
～現場における素晴らしい教育指導経験を、
次なる世代に繋いでいくために～

講師: 山崎 洋史先生 (仙台白百合女子大学)

D: 「ファシリテーターとしての教師」

講師: 杉原里子先生 (スクールソーシャルワーカー、
ホワイトボードミーティング認定講師)

<午後の部 13:00~16:00>

E: 「チームとしての学校・
教育相談校内体制づくり」
講師: 植山起佐子先生 (スクールカウンセラー)

F: 「『コロナ時代』におけるいじめ・不登校への
対応」

～子ども理解と指導・支援・ケアの
視点から～

講師: 春日井 敏之先生 (立命館大学)

G: 「学校教育相談に活かす描画法～理論から
臨床まで～」

講師: 橋本 秀美先生 (跡見学園女子大学)

今年度のワークショップはすべてオンラインで行いました。また、午前と午後の二部に分けて7講座をライブ配信しました。今までは一つの講座を1日かけて学習していましたが1日で2講座が受講できました。

2. 講演

(1) 日程 7月31日(土)・8月1日(日)

(2) 内容・講師

<7月31日>

①文部科学省講演

演題: 「コロナ禍における児童生徒の自殺等
対策について」

講師: 江口 有隣先生 (文部科学省初等中等
教育局児童生徒課課長)

②記念講演

演題: 「LGBTをめぐる教育問題」

講師: 尾辻 かな子先生 (一般社団法人LGBT
政策情報センター代表理事)

<8月1日>

③学会賞・小泉英二賞受賞者講演

3. 実践事例・研究発表、自主シンポジウム

(1) 日程 7月31日(土)・8月1日(日)

(2) 内容 研究・実践事例…18講座

自主シンポジウム…4講座

私は「キラキラプログラム」を研究している米田薫先生の分科会に参加しました。今回は中学校支援学級と小学校での取り組みを発表されました。先生は毎年のように「キラキラプログラム」を研究され、様々な学年の児童生徒の実践を発表していました。「キラプロ」も児童生徒の発達に合わせて研究され、研究を積み上げることの重みを感じた発表でした。

もう一つは「高校における相談室登校の課題と意味」の実践を聞きました。教育相談コーディネーターになった国語科担当の教師が、進学校の登校渋りの生徒たちが教室復帰できるように、相談室を作ることから始めた実践でした。進学校の生徒ならではの「勉強しか取り柄のない自分」が相談室で心を落ち着かせる様子や、周囲の先生に理解してもらい取り組みを発表されました。

コロナ渦でも研究を続けている全国の先生の発表で、力づけられた3日間でした。(文責:幸脇 弥生)

☆ 支部研修会報告 ☆

◇ 定期総会・記念講演

開催日: 令和3年6月5日(土)

実施形式: WEB 開催

◎定期総会 10:00~10:30

1. 理事長あいさつ
2. 議事
 - ①岐阜県支部規約改正について
 - ②2021年度岐阜県支部役員及び事務局の役割分担について
 - ③2020年度の年間事業報告について
 - ④2020年度学校カウンセラー活動報告について
 - ⑤2020年度会計報告及び奇形監査報告について
 - ⑥2021年度の年間行事について
 - ⑦2021年度予算案について
3. 事務局より
 - ①岐阜県支部会員募集について
 - ②学校カウンセラー資格認定について

今回は、岐阜市独自の緊急事態宣言が発出されており、ハイブリッド型研修からオンライン研修に変更になりました。

理事長挨拶では、古田信宏先生のお話の中で、絵本『はらぺこあお



むし』作者、エリック・カールさんについて触れられました。お子さんたちが小さかった頃に何度となく読まれたエピソードとともに、エリック・カールさんのメッセージを教えてくださいました。「忘れてほしいのは、楽しむこと、遊ぶ時間をつくること、そして自分であること」。また、この時期、テニスプレーヤーの大坂なおみさんや女優の深田恭子さんが、一時活動を休止していたことにも触れられました。現在の活動の場から一旦離れるということは、自分であることを大切にするために、自分からヘルプを出したことになる、このお二人は人生において大事な選択をされたのだとお話になりました。今後、子どもたちが「自分であることを大切に」できる人生を歩むために必要なことを伝えていきたいと思いました。(文責 関戸 美枝子)

◎記念講演会 10:30~12:00

「支援につながる他機関との連携」

岐阜聖徳学園大学 教育学部

野村 香代先生

1. 「トライアングル」プロジェクト



発達障害をはじめ障害のある子どもたちへの支援に当たっては、行政分野を超えた切れ目ない連携が不可欠であり、一層の推進が求められているところです。本人の困り感や保護者の思い(何を望んでいるのか)を受けて教育と福祉の連携が、障害のある子と家族をもっと元気にするためのプロジェクトであり、家庭と教育と福祉の連携で誰もが笑顔で毎日を送れる社会に

なることを望んでいます。

児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等では、将来の自立に向け必要なスキルの習得を促す、身辺自立、社会性、コミュニケーション、基礎学習、自己表現、余暇支援まで多種多様です。

学校と児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等との相互理解の促進や保護者も含めた情報共有が必要です。支援の目的とは、「治す」というより、「うまく付き合っていく」。「周りに迷惑をかける」ではなく「その子が生活しやすくなるように」。「今を乗り切るだけ」ではなく「将来働く大人に」を目指して、子どもたちがいろんな人と関わり繋がっていくことが大切と考えます。

支援が必要な子どもやその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目なく支援を受けることが出来るように、家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクトが推進されていくことが大事です。

2. 支援をうまく活用するためのQ&A

①受診や利用は勧めるべきか？

保護者から相談を受けた場合は、「どうして気になられたのですか？」と聞くとよい。お母さんの気持ちを聞き、不安を和らげるために専門機関を紹介することも必要。「家では困っていない。」という保護者には、子どもたちは、場所によって見せる行動が違うことを助言する。

必ず、子どもを中心とした話し方をして、子どもを理解する中で生じる気持ちを支え、何のための受診なのか目的をはっきりさせる。決して強要してはいけない。診断をすることの意味を共有し、それを基に支援を考える。時期や相談先を慎重に選択しなければいけない。

②「受診をします」と保護者が言われたら？

受診に至った保護者の気持ちを知ろう。保護者の心配な点が見えてくる。学校の様子も医療機関と共有できるとよい。現状の問題点や対応すべき課題を整理す

るために専門家の見解を確認する事も大事。

③他機関との連携について

専門機関に相談することは、責められること、怒られることではない。子ども自身が適切なサポートを受けるために必要なこと。いつまでも親が助けることには限界がある。医療機関と繋がることは有効で、家族や支援者が子どもを理解するために、今求めることやこれから先にすべきことを知っておくとよい。能力が高い発達障害の子は、自分が受け入れられないとパニックになる。何回も分かっていることをやらされたり言われたりするとイライラする。

個々の理解の特徴を知るために、具体的な数字で本人に認識させる。目で見て分かる、口頭より視覚化することでクリアに分かることが大事。人によって感覚が違って、世の中には苦手な面を持っている人がいっぱいいることや人と違っていいことを伝える。その上でどこかに繋がっていくとよいことや支援の場があると良いことを丁寧に伝えていく。

3. まとめ

「頑張ったらできるかも」と思いがちだが、本人が気持ちよく過ごせるように支援者が家庭と福祉を繋いでいく。保護者には、「一緒に考えていきましょう」というスタンスで気持ちを十分に理解した上で他機関との連携が大事であることを教えていただきました。

(文責 曾我部 恵美)

◇ 夏季教育相談研修会 (第2回研修会)

開催日：令和3年8月21日(土)

実施形式：WEB開催

◎午前の部 10:00~12:30

「発達障がいのある子 (または疑われる子)

への支援 <<講話と演習>>」

岐阜県公立学校スクールカウンセラー

岐阜地区SC・スクールバイザー

川原 聡先生

知的な障がいは認められないのに「気になる子、気

「がかりな子」は、文部科学省の試算によると 6.5%、つまり、32 人学級に 2 人は「気になる子、がかりな子」が在籍していることとなります。その 6.5%の児童生徒たちが、安心して学校生活を送るためには、その障がいや特性を正しく知り、適切な指導をしていく必要があります。午前中の前半、臨床心理士・公認心理士でスクールカウンセラーの川原 聡先生からの講話の中で、発達障がいやADHD、自閉症スペクトラム、LDなどの特徴や対策、支援の焦点についてお話を伺いました。

発達障がいを抱える人は、「認知のゆがみ」が大きく、認知のずれがあります。そこで、修正する必要があります。

1. ADHD (注意欠陥多動性障がい)

多動性や衝動性(「今」が全て)、不注意(視覚優位で過反応)、主導権の誤認(自分の理由が全てで、自分でルールを決めようとする)という特徴があります。

対策として、衝動性については「今」が全てではないという修正、不注意については視覚的な注意の引き方や防ぎ方、主導性の誤認については「あなたがきめることではない」という修正が必要と学びました。

2. 自閉症スペクトラム

対人関係・社会性の障がい(共感できない・人の気持ちが分からない・集団で遊べない)、コミュニケーションの質的障がい(拙い表現・気持ちが伝えられない)、想像力の障がいとそれによる行動の障がい(こだわり行動、枠に依存、パターン化)という特徴があります。

「イメージ力の弱さ」は、「具体的」を好み、「抽象的」が分からない。「こだわり」は、決まったパターンを好むため、未知や変化に弱い。また、対人関係・社会性の障がいから、自他の違いの認識が弱いといった「心の理論」があります。

対策として、「イメージ力の弱さ」については、具体的な指示や伝達。「こだわり」については、スケジュールの予告や行事の「予習」をすること。「心の理論」は、自他の違いを教えることを学びました。

3. LD (学習障がい)

全般的な知的発達に遅れはないが、特定の能力(書く・読む・聞く・話す・計算する・推論する)のみに障がいがあるという特徴があります。

対策として、個別の能力発達や促進訓練を行うことを学びました。

支援の焦点は、「出口」(症状・現状)を押さえるだけでなく、「入口」(認知・発想)を変えること、共通理解が必要であると話されました。例えば暴力的な言動がある児童生徒がいた場合、何かが起こってからの指導より前に、なぜそういった行動に出てしまうのか知ることが大切であると再認識しました。手が出てしまうのは、嫌なことをされてカッとなってしまった時、怒りの鎮め方を知らないために、「嫌なことをされたら殴っていい」という認知を修正することです。怒りのトレーニングを教え、自分で怒りをコントロールできるよう、日々訓練することで、トラブルの解消につながるだけでなく、その児童生徒自身も心穏やかに生活していけるのではないのでしょうか。

「性格は、習慣の総計である」ともお話しされました。習慣を変えるには、時間と確認、励ましが必要です。児童生徒の困り感に寄り添い、できたことを認め、一緒に喜び合える関係でありたいと思いました。

その後ワークショップでは、実際に事例を提供していただき、PCAGIP法という事例検討法のひとつを使って、ブレイクアウトセッションを行いました。一つの事例を検討していく中で、多くの先生方の意見をうかがうことができ、自分にはない考えを教えていただけたいと思います。事例検討会は、今後の自分のヒントになると感じる事ができた研修になりました。

◎午後の部 13:30~16:00

「いじめ・不登校の未然防止を考えた

実践 <<講話と演習(SGE)>>

岐阜県内学校カウンセラー

郷田 賢先生

「オンラインを使った人間関係作り」…コロナ禍の生活や人間関係の変化で、心が疲弊してしまっている児童生徒が少なからずいます。従来のような人との触れ合いが難しい今、何かできることはないかと考えていた時、この講話を受講する機会を得られました。

いじめや不登校の未然防止について、次の3つのお話を聞きました。

- (1) 問題を未然に防ぐ(予防的)教育相談
- (2) 構成的グループエンカウンター(SGE)について
- (3) SGEによるオンラインでもできる人間関係づくり

集団のもっているプラスの力を最大限に引き出す方法がSGEで、「エンカウンター」とは「出会い」を意味します。グループ体験を通して他者に出会い、自分に出会う…人間関係作りや相互理解、協力して問題解決する力などが育成されること、学級作りだけでなく、保護者会でも活用できることを学びました。

体験することで本音と本音を交流することや自他の発見をすることを目標とし、個人の行動変容を目的とするのがSGEだということで、そのSGEの基本的な進め方を教えていただきました。

その後ワークショップでは、オンラインでできるものをいくつか体験しました。

演習では、「マイネーム」…演習中の自分に名前をつける活動を通して、その由来を相手に伝えることでの自己開示、「私に影響を与えた人」…自分の人生に影響を与えた人を紹介することで、自分の成長を理解することなどのペアで行う活動を行いました。また、4人グループでの活動として、「他己紹介」…他者理解を促進し、交友関係の輪を広げる活動や、ZOOMのホワイトボード機能を使った「しりとり絵描き」を行いました。

今までの生活に戻れない今だからこそ、児童生徒たちにできることを考え、動いていきたいと思える研修となりました。(文責: 関戸 美枝子)

事務局より

●会員による不祥事について

岐阜県支部に所属する会員による不祥事の発生については、令和3年8月13日付けの理事長声明文にてお知らせしたところです。(令和3年8月21日の夏季研修会でも理事長から経緯を説明させていただきました。)

その後、岐阜県支部として会員資格の消失等を本人に通知しました。この一連の対応については、学会本部の会長副会長会、倫理委員会、本部役員会で審議がなされました。その結果、支部の対応は妥当であること、加えて、事案の重大性に鑑み資格消失だけでなく「除名」として再入会できない措置を取ることになりました。

●再発防止に向けて

岐阜県支部理事会として、今回の不祥事を受けた再発防止策として、学校カウンセラー研修会「学校に関わるもののコンプライアンス」(講師: 聖徳学園大学徳広圭子先生)に理事も参加し、学校教育相談に携わる者の心構えについて、改めて理解を深めました。また、「このような研修は会員の皆様にも行うべきではないか」との意見が出されました。

そこで、岐阜県支部の年間計画を見直し、第5回研修会の内容を変更して実施する方向で調整することにしました。詳細につきましては研修会の案内で確認をお願いします。(文責: 事務局長 郷田 賢)

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第27号

2021年(令和3年)10月31日発行

発行: 日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集: 日本学校相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ: <http://jascg-gifu.net/>